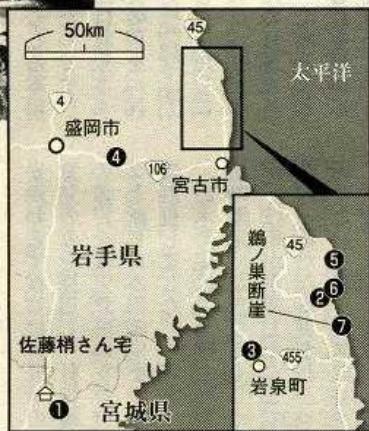


「疑惑の指名手配」

同名の女性が衝撃の告白 代わりで殺された

ジャーナリスト 黒木昭雄



殺された佐藤梢さん(左)。遺体が見つかった沢にかかる橋(右)(地図の数字は左ページの表の数字と対応している)

ローカル線と東北新幹線、さらに地下鉄を乗り継いで5時間あまり。昨年夏に岩手県で起きた殺人事件で指名手配された容疑者の父親らが6月19日、500キロ離れた東京・霞が関の日本弁護士連合会を訪れ、13時に資料を出した。

(人権救済申立書)

08年7月に岩手県川井村

岩手県警は何を隠しているのか――。昨年起きた少女殺害事件で、県警は知人の男性を全国指名手配した。しかし、昨年秋に本誌が報じたところ、この指名手配には大きな疑問符がつく。被害者の遺族までもが再捜査を求めていた。一周忌を前に、殺された少女と同姓同名で容疑者の恋人だった女性が、重い口を開いた。

岩手県警は何を隠しているのか――。昨年起きた少女殺害事件で、県警は知人の男性を全国指名手配した。しかし、昨年秋に本誌が報じたところ、この指名手配には大きな疑問符がつく。被害者の遺族までもが再捜査を求めていた。一周忌を前に、殺された少女と同姓同名で容疑者の恋人だった女性が、重い口を開いた。

かのばる。宮城県栗原市に住んでいた佐藤さんは午後9時半ごろ、知人の小原容疑者から携帯電話で呼び出され、1時間後にコンビニで待ち合わせた。その3日後の7月1日午後4時半ごろ、栗原市から約200キロ離れた岩手県川井村の沢か

てほしい』あらためて事件を振り返ってみよう。

発端は昨年6月28日にさかのばる。宮城県栗原市に住んでいた佐藤さんは午後9時半ごろ、知人の小原容疑者から携帯電話で呼び出され、1時間後にコンビニで待ち合わせた。その3日後の7月1日午後4時半ごろ、栗原市から約200キロ離れた岩手県川井村の沢か

ら遺体で見つかる。司法解剖の結果、死因は手で首を絞められたことによる窒息死だつた。

一方、小原容疑者は佐藤さんを呼び出した翌日の29日朝、弟(26)の自宅にひとりで姿を見せた。右手をけがしていた以外は普段と変わらぬ様子だつた。

佐藤さんの遺体が発見された約4時間半後の1日午後9時ごろ、小原容疑者は発見現場から約90キロ離れた実家近くの県道で、みずから運転する車で電柱に激突する自損事故を起こした。その夜は田野畑村の実家に泊まり、2日午前11時前に弟に電話を入れたのを最後に行方を絶つた。

3日夕方、実家の南約20キロにある鶴ノ巣断崖で、小原容疑者の財布や免許証などが発見された。だが、飛び降りた形跡はなく、遺体は見つかっていない。

県警は、小原容疑者が佐藤さんを誘い出し、車内で首を絞めて殺し、遺体を捨てた後、投身自殺を偽装し

くろき・あきお 1957年生まれ。警察や事件をテーマに、「警察はなぜ堕落したのか」「栃木リンチ殺人事件」など著書多数。元警視庁巡査部長